

令和5年度の学校評価
自己評価等

本年度の 重点目標	確かな学力と逞しく生きる人間力の主体的育成 （「校訓」知・仁・勇の推進－文武両道－）			
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価	評価結果と課題
中高一貫教育	・保護者・地域への情報発信	・校内で新しく組織した広報部を中心に、愛知県教育委員会あいちの学び推進課と連携を図る。他県の先進的な取組を参考にし、校内の検討委員会で検討した計画を具体的に進めていく。	A	<p>・愛知県初の中高一貫校として、また、国際バカロレア認定校を目指して、今後ますます全職員ですすめていく必要がある。</p> <p>今年度は、中高一貫校説明会（11月26日実施）やワーキンググループの開催など、あいちの学び推進課の意向を受けた附属中学校や国際探究科設置の準備を進めていくことができた。</p> <p>また、県内外の先進的な取組を行っている学校に職員を派遣し、その取組を職員全体で共有した。</p>
職員の健康管理 （管理職）	・長時間労働による職員の健康障害の防止	・職員の勤務時間を適正に管理することで、長時間労働による健康障害を防止する。	B	<p>・長時間労働が続く職員に適切に声掛けを行いつつ、全職員の勤務時間を適正に管理した。今後も継続して、健康管理に努めていく。</p>
式典の実施方法・PTA活動の内容研究 （総務）	・式典時、人が対面する方法と、映像を配信する方式のバランスを考慮する。	・式典、PTA研修のいずれについても、新型コロナウイルスの感染拡大以前の方式と感染拡大の時期の方式のそれぞれ良いところを考慮する。	A	<p>・新型コロナウイルス感染症が5類相当になったことから、感染拡大以前の形式の式典になりつつある。コロナ禍で活用した放送、映像を使用した式典は、時間短縮や移動労力の軽減などのメリットがあり、どの式典をどのように行うかを、来年度も広報部、図書情報部と連携しながら考えていく。</p> <p>今年度は、2学期の始業式までは放送で行い、その後は3学年全員が集合して三稜館にて行う機会を設けた。感染状況を見ながら適切に判断できた。</p>
	・PTA研修の企画の研究		A	<p>・今年度の研修は、バス一台で同志社大学と北野天満宮に出かけた。アンケートによると参加者の満足度は高く、来年度も同様の研修を望む声があった。</p> <p>実施時期については、来年度も10月下旬から11月上旬で実施していきたい。</p>
教育活動の充実 （教務）	・各教科における取組の情報の共有化	・各学年や各教科の取組を知り、教科指導の改善を話し合うきっかけとなるようにする。	A	<p>・学習指導要領の改訂に伴い、授業の進度や評価の方法などが変わったため、各教科で科会を通して話し合う機会が増えた。</p> <p>今後、話し合いの中で出た課題を教科間で共有し学校全体の課題として新しい学習指導要領や学科改編にともなう教育課程の編成に生かしていく。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい評価の運用・調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価の反省を踏まえ、その改善点を検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員だけではなく、生徒、保護者においても評価の妥当性を感じることができるよう評価方法をより具体的に考え、適切な時期に説明をしていく。 評価の妥当性や信頼性を高めるために改善してきたが、これからも引き続き改善を加えていく。
登下校における交通ルールの遵守 (生徒サポート)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりある登校による交通ルールとマナーの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の交通安全指導をさらに充実させる。 ・HRなどで意識を高める指導をさらに充実させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちは、声かけや注意に対して素直に応じるが、しばらく時間が経過すると、意識が緩くなってしまふところが課題である。 実際、例年と変わらず、地域の方から生徒の交通マナーや、危険運転に関するご意見をいただくことが度々ある。 今後も継続的に、効果的な指導や取組を模索し、実践していく必要がある。 具体的には、引き続き「0の日交通安全指導」及び「遅刻防止週間」において、学校周辺の危険箇所での立ち番指導を実施したほか、日々校門周辺にて交通安全指導とともに生徒観察を行っていく。 また、始業時間間際に登校してくる生徒へ声かけをし、ゆとりある登校を促し、事故を未然に防ぐ。 なお、地域からのご意見や事故が発生した際には、校内放送や紙面で交通安全に対する意識向上をはかる。
進路指導の実践 (進路指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの夢や志の創成と、その実現に向けた支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務部が作成したキャリア教育計画に基づき、インターンシップの報告会や外部講師による講演会などを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい勤労観・職業観を生徒が身に付けられるよう、継続的・計画的にキャリア教育の機会を設けることができた。 具体的には、講演会や進路講話後、生徒たちの意識の変化を感じることができた。来年度以降も、生徒たちの自己実現の手助けができる機会を多く設けていきたい。 昨年度まで実施していたことも計画通り今年も実施できた。また、今年度より、3年生に対し、PROG-Hを導入したことで、生徒たちが抱える受験上の問題点が明確になり、より個に応じた指導に取り組むことができた。 さらに、大学の教授をお招きして、生徒や保護者向けに講演会を開催することもでき、生徒や保護者の視野を広げる手助けをして頂けた。 加えて、生徒たちが進路相談しやすい環境づくりを心がけ、多くの生徒や再受験生、保護者の方からの相談にも多く対応することができ信頼関係が築けた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現のための学力補強 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の達成度や学習している教科のバランスの確認を定期的に行う。 ・PTA学習委員会と共に、土曜学習会、補習等の学習支援活動を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 土曜学習会は、昨年度同様の方針で運営し、今年度も参加状況は昨年度に引き続き良好であった。ただ、補習に関しては、学習塾に頼る生徒が一定数存在した。今後は、生徒たちの学力や志望に応じた講座の開講や、自習室開放など検討していく必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・新制度入試の検証及び研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度からの新制度入試を検証し、本校がとるべき対策を考え、生徒・職員に還元する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストや各大学の個別試験についての情報交換や指導方法の議論は行われ、生徒に還元することができた。入試に関しては、他分掌との連携を図ることができていないので、今後検討していきたい。 ・生徒の実態に応じて、各自の進路実現に必要な学力の向上を図るよう留意していく必要がある。また、集団での学習より、自学自習を求める生徒も増えてきている昨今の状況について、どのように対処していくかも考える必要がある。 今後も、必要に応じて教務部・図書情報部との連携を図っていきたい。
生徒の健康と安全 (保健相談)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心身の健康把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期健康診断や毎日の健康観察等を活用して、生徒の心身の健康状態を把握し保健指導や相談活動に役立てる。 教育相談連絡会(毎週)等を利用して情報共有に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康観察や人権アンケートを充実させ、生徒の心身の健康状態を常に把握し関係者や関係機関との連絡を密にして、スピード感をもって個別対応できた。 教育相談連絡会をほぼ毎週開催したほか、毎月のなごみルームの開設とともに、相談便りの発行など、新たな取り組みを行うことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の環境美化 	<ul style="list-style-type: none"> ・週2回の一斉清掃と特別清掃を行い、校内美化に努めるとともに、生徒の美化意識の向上を高める。 ・学年ごとに、年1回の除草作業を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃時間以外でも環境美化に取り組めるよう各生徒同士工夫しながら清掃させるまでには至らなかった。 ・感染症予防を意識して、施設の消毒を適切に行えた。 清掃道具の充実など、生徒が環境美化に取り組みやすいように努めた。また、サーキュレーターを各クラスに常設するなど換気対策に努めた。
生徒会執行部による学校行事の運営 (生徒会)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部の主体的行動の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の準備・運営において、生徒会執行部が自ら考え、行動できる場を設ける。 ・生徒会での取り組みを校内に発信していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部だけでなく、生徒会サポーターや部活動の生徒なども協力して取り組むことができた。 新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ数年は状況に応じた対応を余儀なくされた。生徒会として、社会の情勢や学校内の様子を把握、分析することができた。 状況に応じて、適切に判断し、取り組むことにより、無事行事を進めることができた。
図書館の利用推進と読書習慣の普及 (図書情報)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の利用推進と蔵書管理システムの確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の蔵書について、バーコードでの管理を推進し、貸出業務の利便性を高めるとともに、蔵書管理システムの構築を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・津島高校サポーターシステム(TSS)を活用して、事前に図書委員に調べさせたデータを、夏休みに卒業生が入力した。 2学期は「図書館まつり」の計画・準備に追われ、蔵書の整理があまりできなかった。書籍の電子データ化も道半ばである。今後は、図書委員やICT系の活動を進め、蔵書の整理を進めるとともに、書籍の電子データによる管理の完成を目指していく。

情報機器の利用 促進 ネットワークシ ステムの運用・管 理	・全校生徒 への読書習 慣の普及と 定着	・図書委員会を生かし た図書館の年間行事 を実施し、読書習慣の 普及と定着を進める。	A	・オリエンテーション、図書館報、図書委員による広報誌「LIRE」を通じ、図書館の魅力を発信した。図書館まつりでは、図書委員が企画・準備・運営を担当し、メイン企画「タイトル、表紙で見る本の世界」や和綴じ本メモ作成講座、映像やゲーム・POPによるおすすめ本の紹介を行った。来館者数や貸出冊数は増加傾向にある。 ・今後も図書委員が自ら考え活動できるよう、粘り強く関わりながら、全校生徒に読書への興味・関心が定着するよう、取り組んでいきたい。ビブリオバトル活動や、生徒用タブレットを用いた図書館の魅力発信にも取り組んでいく。
	・ICT機器の 授業等での 活用	・授業等でICT機器を 使用する方法を研究 する。	A	・今年度は各クラス1台のプロジェクタを配置し、授業や学校行事で運用できるよう管理した。映像配信の形で、全校集会や体験入学も各教室でできるようになった。今後もICT機器が様々な場面で有効に活用できるよう、各教科・分掌と連携していきたい。 また、全学年に配付した生徒タブレットについて、授業や家庭での使用を推進した。故障や破損にも適切に対応した。
	・校務・学校 運営での円 滑な活用	・システムの移行や更 新に適切に対応する。	B	・Formsを用いてタブレットで確認できる出欠システムについては、朝の多忙解消と出欠状況の共有がはかれた。今後は個人情報保護の観点から、改善を図っていきたい。新校務支援システム(スクールエンジン)の運用に関し、成績処理・調査書作成等について他分掌への移行を行ったが、その引き継ぎを適切に行った。
広報活動の企画・ 運営 (広報)	・学校説明 会の実施	・本校の教育活動と中 高一貫教育の内容に ついて近隣の小・中 学校、保護者、児童生徒 へ発信する。	A	・複数回の学校説明会に参加し、本校の魅力を発信した。 また、中高一貫教育の内容をまとめたリーフレットを作成した。 ・次年度は、小学校や児童、保護者への中高一貫教育の発信が本格的に始まるため、しっかりと準備を進めていく。
国際理解教育 (国際探究)	・コロナウ イルス感染 防止策を講 じた国際理 解教育	・国際理解コース模擬 授業、国際理解講演、 姉妹校オンライン交 流、英語合宿、海外研 修の内容を検討する。	A	・コロナ感染症による制限がなくなったので、予定した行事はすべて行うことができた。また、更に内容を充実することもできた。 具体的には、夏のニュージーランド海外研修や3月のタイ・バンコク都研修(予定)を行うことができ、旅行中の探究結果を下級生に発表させることができた。 また、津島市教育委員会の協力のおかげで、2年生国際理解コース模擬授業で韓国総領事館訪問を新たに企画することができた。 さらに、国際理解講演会では、本校ゆかりの国際画家についての講演を卒業生の方にしていただいた。 加えて、タイ・バンコク都のウィチュティット校と新たに姉妹校提携する約束を取り付け、オンライン交流を始め、3月に訪問する(予定)許可も取れた。 SGHネットワーク校として、WWL(ワールドワイドラーニング)の全国高校生フォーラムに生徒4人が参加できた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・国際探究科開設準備 ・国際バカロレア準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際探究科のカリキュラム作成及び行事計画をする。 ・国際バカロレアのDP（高校）カリキュラム研究を行う。 ・中高一貫での国際探究関連行事を選定する。 	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度からスタートする国際探究科の展望については、さまざまな学校や関連機関を訪問することで、青写真を描くことができた。探究活動や国際バカロレアについても、同じくさまざまな学校や関連機関を視察することで、情報を収集し、その情報を職員会議等で報告し、教員間で共有することができた。しかしながら、具体的な行事の計画や選定には着手できず、次年度の課題となった。 ・東京大学、京都大学、東京学芸大学附属国際中等教育学校、さいたま市立大宮国際中等教育学校、愛知県立千種高校、愛知県立刈谷北高校、名古屋大学教育学部附属中学・高等学校、愛知教育大学附属高等学校、高知県立高知国際中学・高等学校、札幌市立札幌開成中等教育学校等の視察を実施した。 <p>また、国際バカロレアワークショップの「DP Head of school（校長対象）」と「MYP Leading the learning（MYPコーディネーター対象）」を本校の職員が受講し、IB認定のための条件を一部達成した。</p>
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりが主体的、対話的で深い学びを行い、確かな学力を身につけられるよう、授業改善がなされているか。 ・礼節を重んじ、調和のとれた人格の形成を目指し、道徳性・社会性を育てているか。 ・主体的に進路実現が図られているか。 ・令和7年度に向けて準備は進んでいるか。 		